

コード	501041002
記入日	H24.5.9

課コード	124
課名	学校教育課
課長名	濱崎 健也
担当者	青山 一信

事業評価表【事後評価】

作成年度	平成 24 年度
------	----------

評価対象事業名称	有川中学校校訓制作業務委託事業
----------	-----------------

事業種類	単年度事業
事業期間	平成 23 年度 ～ 平成 23 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10
施策コード	501	施策名称	学校教育の充実	項コード	2
基本事業コード	50104	基本事業名称	教育環境の整備	目コード	1
事務事業コード	5010410	事務事業名称	中学校施設整備事業費	細目コード	966
関連計画	法令・条例規則等				

計画 (PLAN)

※単年度事業及び単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 有川中学校	(対象2)	(対象指標1) 1校	(対象指標2)			
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
・昭和22年に創立された有川中学校は、これまで校訓は制定されていなかった。文部科学省から「校訓を活かした学校づくりのあり方について」の報告書を受け、平成21年度に校訓を制定した。生徒、教員、保護者及び地域住民等に広く周知を図り、共有する必要があるため、校訓の石碑による制作を行う。 →校訓石碑制作委託 1.0式	・校訓は学校の教育理念を示す象徴的なものとして取り組まれ、この校訓の下で、学校において、毎年、学校教育目標等として具体的な目標を定め、学校経営の方針を決定していく。校訓制作によって、学校として体系立った教育目標を掲げ、具体的に実践していくことは、重要なことであり、その効果は大きなものがある。	*****	*****	*****	実施委託業務÷ 計画委託業務	*****
		① 校訓石碑制作	1.0式	100%		平成23年度
		(達成率分析)	計画どおり有川中学校の校訓制作を行った。			
		②				
		(達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
・校訓石碑を制作することにより、生徒、教員、保護者及び地域住民等で、目標・理念、学校づくりのための活動など、取り組み意識の共有を図ることを目的とする。		*****	*****	*****	実施事業費÷ 計画事業費	*****
		① 進捗率	570千円	100%		平成23年度
		(達成率分析)	計画どおりの事業進捗によって校訓制作を達成することができた。			
		②				
		(達成率分析)				

実施 (DO)

※単年度事業及び単年度繰返事業については、評価実績年度及び全体計画欄のみ記載する。

	単位	全体計画 H 23 ～ H 23		22年度以前	23年度	
		計画	実績	実績	計画	実績
活動指標	① 式	1.0	1.0		1.0	1.0
	②					
成果指標	① %	100	100		100	100
	②					
総事業費 C (A+B)	千円	1,270	1,270		1,270	1,270
直接事業費 A	千円	570	570		570	570
人件費 B	千円	700	700		700	700
内訳	従事職員数	人	0.1	0.1	0.1	0.1
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000
財源内訳	国補助金	千円				
	県補助金	千円				
	起債	千円				
	その他	千円				
内訳	一般財源	千円	1,270	1,270	1,270	1,270

評価 (CHECK)

※理由の欄は必ず記載すること。

1 次 評 価	妥 当 性	・時代情勢、社会環境の変化及び住民のニーズを考慮しても、事業を行う必要がありましたか。	● はい いいえ	理 由	校訓は学校の教育理念を示す象徴的なものであり、この校訓の下で、学校教育目標等として具体的な目標を定め、学校経営の方針を決定していくことから、きわめて重要であり、その効果は大きなものがある。
	有 効 性	・事業の目的は達成されましたか。	● はい いいえ	理 由	校訓の石碑制作によって、生徒、教員、保護者及び地域住民等に広く周知が図られ、共有する教育目標ができたことから、目的は達成された。
	効 率 性	・より少ない費用や業務量で事業や活動が効率的に実施できましたか。	● はい いいえ	理 由	近隣の学校と比較しても合理的・効率的な内容であったと考える。

改善 (ACTION)

1 次 評 価	○今後の関連事業に対する改善点（事業方法の検証・事業の成果等の検証を踏まえて、今後の関連事業等に対する改善点）	
	<p>校訓を見つめ直し、実践する取り組みは、多くの学校で伝統的な校訓の継承や新たな校訓の創造といった形で行われており、校訓を紐帯として学校・家庭・地域が連携協力している例も少なくない。また、これらの取組によって、学校は団結し、児童生徒は愛校心や自立心を持って一人の人間として様々な能力を身につけ、地域の活性化も期待できる。「校訓を活かした学校づくり」は、「人づくり」「地域づくり」にもつながる極めて有効な取り組みであり、今後も各学校で積極的に推進していくことが望まれる。</p> <p>これらのことから、校訓を活かした学校づくりの推進は、学校の教育理念を示す象徴的なものであり、この校訓の下で、学校において、毎年、学校教育目標等として具体的な目標を定め、学校経営の方針を決定していく重要なものであり、その効果は大きい。</p>	
2 次 評 価	○目的が達成されていない場合の課題と改善策（目的が達成されていない場合、また、課題が継続している場合の改善策）	
	<p>目的は達成された。</p>	
<p>今後も校訓を活かした学校づくりの推進を図ること。</p>		

3次評価 住民等の意見	
町の対応	

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。